
Bank teller

高橋 美羽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Bank teller

【Nコード】

N9164C

【作者名】

高橋 美羽

【あらすじ】

平凡な銀行員の、ある1日を書いた物語。実話に近い？…かもしれないなあ。

いつもと変わらない、週明けの月曜日。銀行に入学して4年。渉外担当だった俺が、この支店に来て窓口担当になり、もうすぐ3ヶ月になる。最初はどのような事かと不安もあったが、徐々に窓口業務にも慣れ、銀行に来店されるお客様の名前や顔も覚え、会話も楽しめるようになってきた。

ただ、仕事面では充実していても、今一つ、何かが満たされていない……そう、しばらくの間、恋をしていないのだ。

大学の時から付き合っていた恋人も、お互いの仕事が忙しすぎて、結局、別れを選ばざるを得なかった。

気がつけば、自宅と銀行との往復の毎日。そろそろプライベートも充実させてもいいんじゃないか…。

ふん（ピンポン） 3番のカードをお持ちのお客様。1番の窓口までお越し下さい。

機械的な声がロビーに響き渡る。

『おはようございます。いらっしゃいます。』

『おはようございます、和泉さん。入金と振込の手続き、お願いします。』

青葉設計事務所の経理の如月さんだ。

『かしこまりました。お掛けになりました、少々お待ち下さい』

如月さんは、ウチの支店の女子行員の間で話題になっている「お客様イケメンランキング」の中で1・2位を争う程の美貌の持ち主だ。栗色の髪と瞳。細身のスーツを着こなし、物腰柔らかそうに話し掛ける姿は女性はもちろん、同性である俺でも、つつい見とれしてしまう程だ。

(…っと、見とれてる場合じゃないや)

入金しようと通帳を開いた時、1枚のメモが挟まっていた。

(なんだろ？何か書いてあるけど…)

【和泉さんへ

個人的な事で申し訳ありませんが、2人きりでお話したい事があります。今夜、時間ありますか？
連絡待ってます。

090 - 1234 - XXXX 如月】

メモを見て、顔を上げると、如月さんと目が合ってしまった。思い切り、照れた様子の如月さんを見ていたら、こっちまで赤面してしまいそうな勢いだ。

さりげなく下を向き、入金と振込の処理を済ませた。

『青葉設計事務所様、お待たせ致しました』

如月さんと呼ぶ声は、緊張していつもより上擦っている。

如月さんもまた、ぎこちない感じで窓口の方へ近づいて来る。

『では、こちら、お通帳と、振込領収書のお返しです』

通帳の表紙には、俺の携帯番号を書いた付箋が付いている。

『……俺も、個人的に如月さんと話があったんです。…きつと、お互い…考えてる事、同じですよね？俺、すごく嬉しいです。今日の夕方、連絡します』

『……どうやら……俺も、今日を境にプライベートで充実した日々が過ごせそうだ。』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9164c/>

B a n k t e l l e r

2010年12月12日14時58分発行